

音 訳 ふ き の と う



きらりいわた人

音訳ボランティア ふきのとう

今回は視覚障がい者向けに30年以上音訳ボランティア活動を行っている「ふきのとう」の皆さんです。メンバーを代表して武部貴美子さん(前列右端)にお話を伺いました。

「音訳」はどのように行いますか？

視覚障がい者のために、いろいろな情報を声に出して読みます。録音してテープやCDにすることもあります。情報としては、文学作品の他、広報・写真・カタログなど多岐にわたります。読み方は朗読のような読み手の解釈を加えることは控え、内容が正確に伝わるように読むよう心掛けています。

結成のきっかけは？

視覚障がい者に対する情報発信を強化してほしいという「磐田市視覚障害者協会」からの希望で、音訳ボランティアを養成する講座が開かれました。その講座の参加者有志が学んだことを実践するために、ボランティア活動を続けていこうということになり、結成されました。現在も研修を重ねています。

どんな活動をしていますか？

視覚障がい者に、より多くの情報を提供したいと思っています。現在CDに録音して定期的に利用者に提供しているものは、各新聞に掲載されている福祉やボランティアの記事、地域の情報、文芸いわたです。要望に応じて小説やエッセイなども音訳しています。メンバーの中には視覚障がい者もいるので、利用者視点の発信を心掛けています。また、作品完成には下読みはもちろん、録音後の校正作業があり大変時間がかかります。それだけに利用者の方から直接感想をいただいたときはとてもうれしいです。

市の情報を集約した「暮らしのガイドブック」を音訳していただきましたが、苦労した点はありませんか？

140ページをメンバー全員で分担しました。録音時間も10時間を超え大変でした。全員で読み方をそろえるために、録音に入る前に符号・記号・表の読み方などの打ち合わせを行いました。生活に関わる重要な情報がたくさんあり、非常にやりがいを感じました。

今後の目標を教えてください

これまでやってきたことをしっかりと継続し、利用者のニーズに合わせた活動をしていきたいです。また、AIやスマホの普及などの時代の流れに合わせて対応できるように研鑽(けんさん)を積んでいきたいです。

※「暮らしのガイドブック」の音声データは各図書館、ひと・ほんの庭にこっとにあります